

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月22日

事業所名 仙台市田子西たんぽぽホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		園庭利用の工夫は必要であり、クラスが交互に使用するよう心掛けている。コロナ感染拡大防止に対応し、クラス在籍の人数を考慮し活動スペースを作っている。	
	②	職員の配置数は適切であるか	○		嘱託医、児発管、保育士、児童指導員、臨床発達心理士、先輩保護者指導員などを配置している	看護師が欠員状態なので早急に配置できるよう対応したい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		各クラスに在籍しているお子さんの特性に合わせた環境設定の工夫をしている。（パーテーション、スケジュールボード使用）	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		療育中の換気、空気清浄や療育中も都度玩具消毒をおこなっている。パーテーションの設置で空間利用が分かり易いよう工夫している。	換気、消毒などをおこない、感染が収束するまで現状の対策を行い感染拡大防止に努める。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		頂いた評価を真摯に受け止め頂いたご意見に対して職員全員で検討し、改善に向けた取り組みをおこなっている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		アンケートの結果を踏まえ評価の改善内容をホームページや情報コーナーに文書を貼りだし公表している。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修委員会が中心となり、階層、職種ごとの研修を実施している。また、6園合同の勉強会の他に各園ごとに必要な研修（園内研修）を企画している。	引き続き階層、職種ごとの課題を共有し実践に活かせる研修を充実させる。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントシートを使用し、児発管が中心となり支援会議をおこない、支援計画を作成している。	個に応じたアセスメントツールを用いて、多職種が連携し、支援計画を多面的に分析し作成することを定着させていきたい。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		個の発達段階や支援利用期間の長短に合わせ、具体的で分かり易い内容に作成するよう配慮している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		療育内容は集団と個別を取り入れ、様々な経験を楽しく積み重ねられるよう工夫し、設定している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		固定した活動を継続することも大切にしながら、様々な経験を積み重ねられるよう工夫している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動に支援計画の内容を組み込んだり、個別活動でおこなったことを集団活動に汎用させながら療育をおこなっている。	個別活動の利用回数に偏りが生じないように工夫していく。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員の勤務時間（短時間勤務）への配慮として、ホワイトボードの活用に合わせて、打ち合わせノートも利用し、連絡漏れのないよう努めている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		全体反省ノートに記入し、全職員でその日の活動の振り返りをおこなっている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の様子、支援改善点、勉強会の受講をケース記録に記録し後から振り返りができるようにしている。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		クラスの担任だけでなく必要に応じて園長等も参画している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		のびすく宮城野子育て支援室と育児サロンを共催し、子育て支援ネットワーク会議に参加し連携を努めている。	保健センターでの健診受診後、育児や発達に不安な親子の遊びと相談の場を、のびすくと共催して提供することで、更に充実させていきたい。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		こども病院や相談支援員と連携しているケースがあり、共通な支援を行えるようにしている。	コロナ禍で同行や同席の困難な場合は保護者からの聞き取りで支援内容を確認していく。

関係機関や保護者との連携	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		医ケア対象のお子さんの在籍はなかった。単独対象のお子さんは母からの情報聞き取りを行っている。必要に応じてケア会議をおこなったケースがある。	同行が難しい場合は保護者からの聞き取りで支援内容を確認していく。
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者と一緒に作成した移行支援シートを用いて、訪問支援を行っている。	
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	—		卒園児の年齢で小学校対象の児童がいないためおこなっていない。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		合同の会議や職員研修会に職員が参加し情報交換をしている。	センター合同人材育成プログラムを継続実施していく。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	△		施設の行事に近隣の保育園の児を招待し交流する予定にしていたが、コロナの為、断念した。	コロナ禍において、近隣の園児作品展をたんぼぼでおこなうなど、出来る範囲で連携を強めていきたい。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		活動の振り返りのミーティング、個別面談で子どもの姿を確認する。その後の課題について保護者と確認し、共通理解を持つ。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		家族支援としてのペアレントトレーニングを少人数でおこない、グループワークを重ね意見交換をおこなっている。	勉強会資料は常にブラッシュアップさせていく。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		運営規定、利用者負担に関しては、新入園児説明会での契約書の説明の中で言及している。更に園内に運営規定を掲示することで理解していただいている。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		入園説明会や面談の中で説明を行い保護者の同意を得ている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		グループワーク、あるいは必要に応じて個別相談をおこない具体的な支援方法、対応方法などについて助言や支援を行っている。	職員の経験年数に拘わらず保護者からの相談は丁寧に傾聴し、待たせることなく出来るだけ早く対応するようクラス職員で話し合う時間を設けている。より対応が必要な内容に関しては園長主任を交えて対応している。
	③5	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		個別相談の利用にはタイムリーに応じ緊急度・内容によって園長・主任が面談を実施したり他機関との連携を図っている。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		ケース記録や他記録、USBなどは、施錠できるロッカーに保管している。個人情報には目に見える場所には保管しない。パソコンは持ち出しできないようにロックし施錠を徹底している。	
	③9	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じて、保護者に対しても視覚化して伝えている。	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナのため、実施できなかったが、在籍しているお子さんの製作を展示することはおこなった。	
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		職員には年度初めに研修を行いマニュアルを周知している。保護者には契約時の説明のほか状況に変化が見られる都度説明を行った。	
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		BCPを作成し、毎月、災害に応じた避難訓練をおこなっている。防災についての意識向上を目指す目的として「防災について」のテーマで保護者勉強会を開催している。	
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入園時にお子さんの様子を書類で提出してもらい確認している。また、随時体調に変化があれば保護者から聞き取っている。	
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	△		給食ではないので指示書は頂いていないが、入園時の「お子さんの様子」にアレルギーに関する記述欄を設けている。また、都度聞き取りを行うよう配慮している。	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		活動中の怪我に関しては病院に繋がらない症状であっても職員会議で報告し、ヒヤリハットに記入し回覧している。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員を中心に月一回全体で虐待の有無を確認している。	虐待防止委員会が中心となって虐待防止、身体拘束の予防に努める。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	—		年度始めの職員研修で身体拘束にあたる行為について確認している。また、お子さんへの対応としては身体拘束にならない対応をしているのであえて支援計画には記載していない。	

※この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。